# 第１回オンライン自主研修　感想・意見

東灘区保護司会

令和３年４月１０日
東灘区保護司会広報部会、研修部会
（担当）ホームページ担当　和田道夫

第１回オンライン自主研修のご案内

【教材】①東灘区保護司会 https://hogoshikai.site/
メニュー「ライブラリー」「法務省」「再犯防止ってなに」
②YouTube「再犯防止ってなに」検索

公開されており
いつでも
視聴できます

再犯防止ってなに？～誰ひとり取り残さないまち、そこでは～

■構成
0:08～　オープニング
9:03～　「再犯防止」の現状と課題
15:08～　奈良県の取組・VTR①（トラウデン×荒井知事）
24:54～　奈良県のVTR②
34:13～　愛知県の取組・VTR
44:51～　ご意見・ご質問紹介①
50:13～　宮城県の取組・VTR
1:01:26～　上川法務大臣のビデオメッセージ
1:04:49～　ご意見・ご質問紹介②
1:07:41～　エンディング
■出演者（敬称略）
コメンテーター
・トラウデン 直美（モデル／タレント）
・鈴木 健一（三重県伊勢市長）
・野口 義弘（協力雇用主／有限会社野口石油代表取締役会長）
・早須 宏毅（法務省大臣官房秘書課企画再犯防止推進室長）
コーディネーター
・山本 舞衣子（フリーアナウンサー）



【自主研修の要領】
①YouTube MOJchanne l をご覧ください。
②ご覧になった感想、意見を１００字以上にまとめて
hogoshikai11874 @ gmail.com
に「所属支部」「氏名」「視聴月日」を記入してメールください。（支部長による代行メールでも結構です）

送付期限延長

送付期限は令和３年６月１６日（水）です。（期限遵守と１００字以上の感想・意見は必須です）

① 今回のテーマパーク再犯防止と地方公共団体との関係であった。神戸市役所に勤務していた者にとって関心のあるテーマである。正直な話、区役所勤務がなかったこともあり、再犯防止を仕事として認識することはなかった。確か、兵庫県は再犯防止推進計画を策定しているが、神戸市は未策定だったのではないか。やはり、再犯防止は地域社会全体の問題であり、国の方針の下、市民と密着した市町村がリーダーシップを発揮して頂きたいと思う。そういう意味では、我々保護司会としては、東灘区役所との連携の充実が望まれると思う。

② 奈良、愛知、宮城と各地域の取り組みを観させて頂き、大変、感銘を受けました。私が一番感じたのは、「協力」ということです。「再販防止＝より良い街づくり」と言う事であれば、目的を同じとする団体が多くあるはずです。問題となるのは、「再販防止」という取り組みの認知度の低さと、知識不足による恐れがあるように思います。

確かに十分に広報活動を行なっているし、保護司をはじめ、女性会など各団体も非常によい働きをしています。おそらく、それだけでは拭いきれない何かがあるのかもしれません。かく言う私も、保護しになるまでは、その必要性も、内容も全く知りませんでした。

時間のかかることかもしれませんが、地道な活動がいちばん、功を奏するように思います。私がまず出来ることは、保護司の活動を真面目に行うことと、与えられている社会での仕事をしっかりとこなす事だと感じています。社会の信用がなければ、私の話を聞く人はいないでしょう。

その上で、その地域のニーズに合わせた協力体制が整えられるようになれば良いなと考えています。まだまだ、知らないことが多く、学ぶべき事が多くありますので、研修に参加したり、先輩方から学ぶことで、日々精進したいと思います。

③ 再犯率の高さに（約 50%）驚きました。国による「再犯防止推進法」、
5 つの基本方針
・「誰一人取り残さない」社会の実現
７つの重点課題、
・民間協力者の活動の推進等、広報・啓発活動の推進等

が我々の活動の一つ「社会を明るくする運動」だと思います。地域の方々に、再犯防止＝地域の安全につながることを、アピールしていければいいかと思います。

④　奈良県、愛知県、宮城県の取り組みを拝聴し、犯罪者が社会に戻ってきた時に地域全体でどのように立ち直りを支援し、地域全体考えられるかを保護司としてもあらためて考えさせられました。
息の長い支援、地域皆からの温かい協力を得て、「あきらめず、あわてず、くさらず」一歩ずつ更生の道を立ち直れるように支援したいです。
同じ人間、誰も排除せず優しい気持ちを持って、その心を大事にして犯罪予防・再犯防止に取り組んでいきたいです。

⑤　先日、第１回オンライン自主研修「再犯防止ってなに？～」を拝聴しました、
内容も充実してて、保護司としてとても勉強になりました、兵庫県の取り組みはどのような感じなんでしょうか、次回も拝聴出来ればと思っています、

⑥　コロナ禍で地域別定例研修が開催されないなか、オンライン自主研修を企画してくださり、ありがとうございます。スマホが当たり前になった今日、誰でも視聴できるＹＯＵＴＵＢＥを活用した新しい試み、さすが東灘区保護司会と思いました。コロナ後でも、是非とも、オンライン自主研修を続けて下さい。

⑦　保護司の大先輩たちの、自分を横においての献身的なご活動に、ただただ感心しました。
　まだまだ、社会にはびこる、見えない心のバリアを取り去る努力がまず必須なのだとツクヅク。
　狭い価値観、長い島国での歴史は、すぐに変えようもなく、身近な所から感じられる、多様性への拒否の一つかとも思うのですが、まずは近くの人々に、機会がある毎に、心のバリアフリー化を取り払うお手伝いをしていきたいです。
　そして、何より、自身の中をしっかり見て行かないと、まだまだだと思う日々です。
　良い学びの機会をありがとうございました。

⑧　奈良県の森林の山守の仕事に従事されている出所者の方が、「今まで、悩んだりしたとき相談する人がいないこともよくあって、今相談員の方に小さなことでも相談することで、いろいろな問題解決策の選択肢が広がるのですごく助かっている」と言っておられたのがとても印象的だった。我々保護司がまさにこの役割を担っているんだと思うと、尚一層、やりがいを感じるとともに、その責任の重さを痛感した。
　また、愛知県の取組みで、弁護士さんが盗癖のある方の支援で、認知行動療法の治療をしている姿があった。私が担当した対象者も、先日再犯（窃盗）で服役中である。出所されてまた担当することになれば、ぜひ参考にしたい事例だった。

⑨　今回の動画は再犯防止のための取り組みのうち、出口支援や心・精神面の支援、居場所づくりといった各県・自治体での取り組みを紹介している。再犯防止のための支援は多岐にわたりどれも重要であると思う。その取り組みにはお金の問題が出てくるので行政の関わりは特に必要であると思う。そういった行政の積極的な援助が増えてきているなら良い傾向である。ただ、動画最初にあった、刑法犯は減っているのに、再犯者率は増えている現状。これは一番ひっかかる。今回の動画では触れられていないが、ここが一番大事かなと思う。例えば、性犯罪や薬物は再犯率が高いと思う。特徴を分析し、より専門的な対象者にあった支援が必要ではないか。私が担当した環境調整で 50 歳ぐらいの方は累犯６入りで性犯罪を繰り返している。専門的な支援（治療）が必要だったのではと思う。そういった点が触れられていないのは残念である。

⑩　この度はオンライン研修を企画して頂きましてありがとうございました。
生活環境調整を1度担当させて頂きましたが、
新任研修はまだ受講できておりませんので、大変勉強になりました。
「再犯防止ってなに？立ち直りの最前線」を視聴し、感じたことは大きく3点です。
まず1点目は再犯防止の意義についてです。
動画内のグラフにあったように、
刑法犯検挙数は2006年に約40万人（再犯約15万人、初犯約25万人）だったものが、
2019年には約20万人（再犯約10万人、初犯約10万人）と総数は減少しているものの、
再犯率は40%から50%に上昇しています。
このことからも明らかなように、私たちが暮らす地域社会を安心安全なものにするためにも、
再犯防止は極めて重要です。
ただ一方で、出演されていた協力雇用主の野口さまがおっしゃっていたことが印象的でした。
2点目としては被害者の視点に立つことの重要性です。
動画に出演されていた野口さまは協力雇用主として受け入れを始めた当初、
地域の方から「加害者支援をしている」と随分批判されたとおっしゃっていました。
犯罪の内容によっては被害者がいることがあります。
今後保護司として対象者を担当することとなった時に、
被害者の方から見ると私たち保護司の活動は加害者支援に映るかもしれません。
加害者の生まれ育った環境を知ることで「加害者自身が被害者だった」と感じることがあるかもしれません。
今後の研修などで学ぶことがあるかと思いますが、
対象者の立ち直りに懸命に取り組みながらも、俯瞰してバランス感覚を保つ大切さを感じました。
そして最後3点目が私たちにできることです。
今回の動画を視聴した後に、妻に色々と質問をしてみました。
「〇〇の犯罪を起こした人と一緒に働くことになったらどう思う？」
「〇〇の犯罪を起こした人がお隣さんになったらどう思う？」
犯罪の内容によって違いはあるものの、嫌悪感を抱きました。
一線を越えてしまった人が自分の生活圏内に入ってくることへの感情としては、
多くの一般の方も同様かと思います。
数値上は再犯を100%防止できれば犯罪件数は半分になります。
初犯を事前に捉えることは難しく、再犯は法改正や方法、技術で数は減らせると考えますが、
やはりそのためには周囲の理解が必要です。
法改正などによって安心材料が得られること、対一人の人間として関わる中で信頼できること、
そういったことによって、犯罪を犯した人であっても周囲に受け入れられる可能性はあります。
先述の野口さまはじめ最前線で再犯防止に取り組む方々は、
「再犯防止には「働く場所」「住む場所」「人との繋がり」が必要だ」とおっしゃっていました。
多くの方の理解を得るためにも、
私たち保護司は、自分たちの本業、そして保護司活動に懸命に取り組み、
まずは私たち自身が周囲からの理解を得ることが大切だと感じました。
いい機会を頂きましてありがとうございました。